

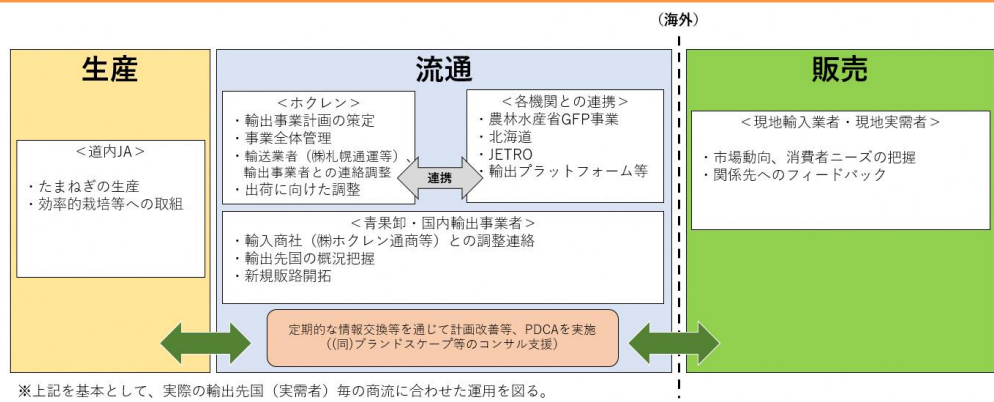
1. 輸出における現状と課題

- [現状]
- 北海道はたまねぎの国内生産量の約7割を占めており、海外輸出は北海道産の輸出が多く、北海道の生産需給動向が輸出動向に直結する「旗艦的な大ロット輸出産地のモデル地区」として取組みを実践している。また、台湾では最も輸入している作物がたまねぎであり、日本産の拡大余地があるため、物量確保や効率面などの課題解決に取り組んでいる。
- [課題]
- (1) 目標達成のためには、他国産を圧倒的に凌駕する品質担保に向けた鮮度保持輸送の確立が必要であるが、輸出を行うための統一規格品の安定的な数量確保ができていない。
 - (2) 手作業によるコンテナへの積み込みが発生し、輸出にあたり、2024年問題の影響が最大のネックになっている。
 - (3) 外国産の同種作物との差別化で、輸出産地のブランド化を計っていくことが必要。
 - (4) 台湾に安定した輸出を実施してきたが、現地で何が好評を得ているのかという部分の知見がない。

2. 輸出事業計画の取組内容

- GFP大規模輸出産地生産基盤強化プロジェクトに参画し、以下の取組を行う。
- (1) 国内需要の少ない小玉（S規格）のマレーシア向け出荷をおこない、輸送試験および需要調査をおこなう。
 - (2) ワンウェイパレットの物流実証。
 - (3) 輸出競合国との競争力向上のため流通コストを抑える粗原規格・フレキシブルコンテナ出荷の輸送試験をおこなう。
 - (4) 台湾・マレーシア、香港、シンガポールおよびオランダに現地渡航し、「輸出用たまねぎ」としての国内用と区分していくために、用途・ブランドイメージ・消費者のこだわり等を把握する。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

		現状 (令和4年度)	目標 (令和8年度)
北海道	輸出額(千円)	821,503	2,224,720
	輸出量 (t)	12,788	26,184
	輸出先国	台湾、韓国	台湾、韓国、香港、シンガポール、マレーシア、オランダ
	生産量/取扱量 (t)	772,900	820,000